

—鍼灸治療の学理研究 第7報—

つわりに対して鍼灸治療が
有効であった1症例

清野鍼灸整骨院

○村田朝子、山田昌紀、清野充典

【緒言】

- 妊娠による母体の変化として、つわりがある。妊娠初期に見られる消化器系の症状で、悪心・嘔吐がおこり、重症化することもある。別名で、妊娠嘔吐とも言われる。母体が心身共に安定した生活が困難になった場合、母子共に安全な治療として鍼灸治療がどう生かされるかを検討した。

【症例】

- 年齡：3 4 歲
- 受診日：2 0 1 1 年 1 1 月 8 日
- 性別：女性
- 初産 妊娠 7 週目
- 主訴

嘔氣・嘔吐・左腰部痛

【所見】

- 小便：二時間おき
- 大便：便秘と下痢を繰り返す
痔あり
- 顔色不良
- 手足の冷えあり
- 既往歴：32歳で、子宮筋腫・卵巣の腫れによりピルを6か月前まで服用。

【現病歴】

- 妊娠5週目より、嘔気・嘔吐の症状が出現する。漢方薬を服用。朝食は、果物・ゼリー飲料・おにぎり等。昼食は、おにぎり一口程度。午後より悪心が強くなり、夕食は、摂取不可。
- 日暮れから就寝まで嘔吐があり、トイレから離れることができない状態となる。嘔吐しても、吐くものがなく胃液に血が混ざっていることもある。

【治療方法】

- 仰臥位、銀鍼1寸3番にて腹部接触鍼。腹診をする。触診にて、胎児の位置を確認する。
- 側臥位、背部俞穴に銀鍼1寸3番、撚鍼法にて單刺術を行う。
- 督脈上の圧痛のある穴に半米粒大・直接灸を圧痛が取れるまで行う。
- 仰臥位にて、要穴に直接灸を行う。
- 胸骨上、骨際の圧痛部に直接灸を行う。
- 間使穴・内関穴の圧痛穴にマグレインを貼付。

【治療・経過】

- 初診（11月8日）：常に心窩部に気持ち悪さを感じていると訴える。背部俞穴に銀鍼1寸3番単刺術、脾経・胃経の要穴に直接灸。
- 2診目（11月11日）：腰痛消失。夜間は、悪心により一時間おきに目覚める。つわりの症状が改善できるか心配と訴える。背部俞穴単刺術、神道穴・商丘穴・上巨虚穴に半米粒大、直接灸、内関穴にマグレイン添付。

● 3 診目 (11月15日) : 治療後、調子
がよく仕事に出たため悪化。治療後2
日間は、嘔吐の回数が6回から1~3
回に減少した。就寝後も悪心のために
眠りが浅い。背部俞穴単刺術、神道
穴・勞宮穴に直接灸。間使穴にマグレ
イン添付。

● 4 診目 (11月18日) : 治療後3日間
は、嘔吐なし。腰部痛あり。背部俞穴
単刺術、神道穴・勞宮穴・膈中穴に直
接灸。間使穴にマグレイン添付。

【考察】

- つわりの悪心・嘔吐に対して、督脈上圧痛点への直接灸と心包経への持続刺激により症状の消失がみられた。督脈上において圧痛のある穴に直接灸をする際に、圧痛が消失するまで行うことが重要であると考ええる。
- 経穴へのマグレインによる持続刺激は、精神的な不安を緩和させることが期待できる。

【結語】

- つわりは、正常な反応であるが、妊娠初期のつらい症状の1つである。食事・睡眠が十分できない状態では、精神的な苦痛も高まり、妊娠に対して母親が、マイナスのイメージを持ち続けてしまう恐れがある。鍼灸治療により、症状の緩和と共に、患者の表情や気持ちが明るくなり、仕事の継続も可能となった。鍼灸治療は、つわり症状には有効であると考ええる。